

はじめに

AWS 認定 SysOps アドミニストレーター - アソシエイト (SOA-C01) 試験は、AWS でのデプロイ、管理、運用に関する技術的な専門スキルを持つ個人を対象としています。

この試験で評価する能力は次のとおりです。

- AWS での拡張性、可用性、フォルトトレランス性の高いシステムのデプロイ、管理、運用
- AWS との間で送受信されるデータフローの実現と制御
- コンピューティング、データ、セキュリティの要件に基づく、適切な AWS サービスの選択
- AWS の運用に関するベストプラクティスの適切な適用方法の特定
- AWS の利用料金の見積りと、運用コストの管理方法の特定
- オンプレミスのワークロードの AWS への移行

試験の前提条件

この試験を受けるにあたっての前提条件はありません。

推奨される AWS の知識

- AWS に関する 1 年以上の実務経験
- AWS でのシステムの管理/運用の経験
- 「Architecting for the Cloud (クラウドにおけるアーキテクチャの設計原則)」という AWS の考え方の理解
- AWS サービスの CLI および SDK/API ツールに関する実務経験
- AWS に関連するネットワーク技術に関する知識
- セキュリティ制御の実現およびコンプライアンス要件への対応に関するセキュリティの考え方の理解と実務経験

推奨される一般的な IT の知識

- システムの運用を担当するシステム管理者としての 1~2 年の経験
- 仮想化技術に関する理解
- システムのモニタリングおよび監査の経験
- ネットワークの概念に関する知識 (DNS、TCP/IP、ファイアウォールなど)
- アーキテクチャに関する要件を具体的に解釈できる能力

試験準備

本試験の準備に役立つトレーニングコースと資料は次のとおりです。

AWS に関するトレーニング

- [System Operations on AWS](#)

ホワイトペーパー

- [Architecting for the Cloud: AWS Best Practices](#)
- [AWS セキュリティのベストプラクティス](#)
- [アマゾン ウェブ サービス: セキュリティプロセスの概要](#)
- [AWS Well-Architected Framework](#)
- [Development and Test on AWS](#)

- [Backup and Recovery Approaches Using AWS](#)
- [Amazon Virtual Private Cloud Connectivity Options](#)
- [How AWS Pricing Works](#)

その他

- [AWS Certified SysOps Administrator Official Study Guide: Associate Exam](#)

試験内容

回答タイプ

試験の質問には以下の 2 種類があります。

- **択一選択問題**: 選択肢には 1 つの正解と 3 つの不正解（誤答）があります。
- **複数選択問題**: 5 つ以上の選択肢の中に 2 つ以上の正解があります。

文章に最もよく当てはまるもの、または質問の回答となるものを 1 つ以上選択します。不正解の選択肢は、知識やスキルが不十分な受験者が間違えやすいもので構成されています。多くの場合、試験の目的に応じた出題分野に当てはまる、もっともらしい回答になっています。

回答しなかった場合は不正解とされるため、推測でも答える方が有利です。

採点対象外の内容

試験には、採点の対象にはならない項目が含まれる場合があります。これは統計的な情報を集めるために試験に組み込まれています。フォーム上でこれらの項目を区別することはできませんが、スコアに影響を与えることもありません。

試験の結果

AWS 認定 SysOps アドミニストレーター (SOA-C01) 試験の結果は、合格または不合格のいずれかになります。試験は、認定業界のベストプラクティスとガイドラインに従って、AWS プロフェッショナルにより設定された最低基準に達しているかどうかに応じて採点されます。

試験結果は 100~1000 点の範囲のスコアでレポートされます。最低合格スコアは 720 点です。スコアによって、試験での全体的な成績と合否がわかります。スケールドスコアモデルは、難易度にわずかな違いのある複数の試験形式のスコアを平均化するために使用されます。

スコアレポートには各セッションレベルでの成績の等級表が掲載されています。この情報は、試験成績に関する全体的なフィードバックを提供することを目的として設計されています。試験では補填形式のスコアモデルが使用されるため、個別のセッションごとに「合格」する必要はなく、試験全体で合格することのみが求められます。試験の各セッションには特定の重み付けがされているため、一部のセッションでは質問数が他のセッションよりも多くなっています。表には、長所と弱点を示す総合的な情報が含まれています。セッションレベルのフィードバックは慎重に解釈するようにしてください。

試験内容の概要

この試験ガイドには、比重、出題分野、および試験の目的のみが記載されています。試験の出題内容全体を記載しているわけではありません。出題分野とおおまかな比重を以下の表に示します。

分野	試験における比重
分野 1: モニタリングとレポート	22%
分野 2: 高可用性	8%
分野 3: 展開とプロビジョニング	14%
分野 4: ストレージおよびデータの管理	12%
分野 5: セキュリティとコンプライアンス	18%
分野 6: ネットワーク	14%
分野 7: 自動化と最適化	12%
合計	100%

分野 1: モニタリングとレポート

- 1.1 AWS のモニタリングサービスを利用したメトリクスおよびアラームの作成と運用
- 1.2 パフォーマンスと可用性のメトリクスについて、およびその違いについての理解
- 1.3 パフォーマンスと可用性のメトリクスに基づく、改善に必要な手順の実行

分野 2: 高可用性

- 2.1 ユースケースに応じた拡張性と伸縮性の実現
- 2.2 AWS における高可用性と回復性について、およびその違いについての理解

分野 3: 展開とプロビジョニング

- 3.1 クラウドリソースのプロビジョニングに必要な手順の特定と実行
- 3.2 展開に関する問題の特定と改善

分野 4: ストレージおよびデータの管理

- 4.1 データ保持の作成と管理
- 4.2 データ保護、暗号化、キャパシティプランニングのニーズの特定と実現

分野 5: セキュリティとコンプライアンス

- 5.1 AWS におけるセキュリティポリシーの導入と管理
- 5.2 AWS 使用時のアクセス制御の実現
- 5.3 共有責任モデルにおけるロールと責任の違いの理解

分野 6: ネットワーク

- 6.1 AWS のネットワーク機能の適用
- 6.2 AWS の接続サービスの導入
- 6.3 ネットワークの問題のトラブルシューティングに関係する情報の収集と解釈

分野 7: 自動化と最適化

- 7.1 AWS のサービスや機能を使用したリソース使用状況の管理と評価
- 7.2 リソースを効率的に使用するためのコスト最適化戦略の採用
- 7.3 管理オーバーヘッドを最小限に抑えるための手作業および繰り返し実行するプロセスの自動化